



練馬区ブックスタート10周年記念事業 シンポジウム “絵本のよろこび”



と き 2月3日(日) 13時30分～16時

と ころ 練馬区役所本庁舎地下アトリウム 多目的会議室 (練馬区豊玉北6-12-1)

2月3日、練馬区のブックスタート事業開始10周年を記念して、シンポジウム「絵本のよろこび」が開催され、区内外から約120名が参加した。

当日は、第1部で児童文学者の松居直(まつい ただし)氏が赤ちゃんへの言葉かけなど絵本を通じた親子のコミュニケーションの大切さなどをテーマに基調講演を行い、第2部で同氏、練馬区立図書館でブックスタート事業に携わっている団体の代表者の関日奈子氏、NPOブックスタートスタッフの天津智美氏ほかにより、「ねりまのブックスタート10年とこれから」をテーマにパネルディスカッションを行った。

参加した大学生の女性(光が丘在住)は、「図書館でブックスタートのような子育て支援を行っている」と初めて知った。絵本を使って赤ちゃんとおふれあう楽しさが実感できた。自分に子どもができたなら一緒に絵本を楽しみたい」と感想を話してくれた。

【練馬区のブックスタート事業】

4か月健診を受診した赤ちゃんを対象に、12館ある区立図書館で地域の方々の協力の下、絵本を配布するだけでなく、わらべうたや手あそびを実践して赤ちゃんとのコミュニケーションの大切さを伝えたり、子育てについて地域情報を提供したりして、地域ぐるみで子育てを応援している。

【当日の様子】

第1部では、松居氏が赤ちゃんが健やかに成長していくために、親とのふれあいの時間が大切であると語り、絵本を介することにより赤ちゃんが目が多様な色彩を感じ、耳で肉声を感じられ、豊かな情緒がはぐくまれると話した。また、長く読み継がれてきた絵本の紹介なども行われた。

第2部では、内野光が丘図書館長が平成14年に練馬区のブックスタート事業が始まってからこれまでの経緯などを話した後、イギリスが発祥の地であるブックスタートが日本に導入され、全国各地の自治体に広まってきた経緯や事例などがNPOブックスタートスタッフの天津氏から話があった。事業開始から運営に携わってきたねりまブックスタートの会代表、関氏はボランティアとして関わってきた経緯や赤ちゃんとお親との関わり方について改めて実感したことなどを語った。また、ブックスタート事業が絵本を配布するだけでなく、親子のふれあいの時間の大切さを伝える事業であること、絵本を介することで得られる効果について意見が交わされた。同会場内には練馬区のブックスタート事業を紹介するパネルや10年間配布されてきた絵本も展示されており、来場した方々は絵本を手にとって眺めるなど熱心に見入っていた。

【講師の紹介】

○松居 直 氏

1926年京都市に生まれる。1951年同志社大学法学部卒業。1952年の福音館書店創業に参画、編集部長、社長、会長を歴任、現在、株式会社福音館書店相談役。株式会社教文館取締役。1965年絵本『ももたろう』でサンケイ児童出版文化賞、1993年出版界で初めてモービル児童文化賞を受賞。1996年日本児童文芸家協会より「児童文化功労者」の表彰を受ける。

【問い合わせ】教育振興部 光が丘図書館 子供事業統括係 電話 03-5383-6500